

歴史の「展示」をプランニングしてみよう

東京都立総合工科高等学校 佐々木 純

1. 実施学年および教科領域

(1) 教科・領域 高等学校第3学年選択日本史A

(2) 実施学年 全日制工業科第3学年

日本史学習が義務教育以来となる生徒たちに^{註1}、課題を解消し生徒の潜在能力を伸長させる方法として授業実践を試みた^{註2}。

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連

(1) 学習のねらい

資料の活用が授業実践の内容を規定するので、資料を活用の前提となる資料から情報を引き出す段階で躓いている生徒の現状を勘案しながら、授業を通じて身に付けさせたい力に就いて学習指導要領をもとに考察したい。

高等学校学習指導要領地理歴史科日本史Aでは「資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を高めること^{註3}」が求められている。そこで、貸し出し教材を読み解き、関連資料を収集・分析する学習活動や「資料展示のプランニングづくり」の形態で表現する活動を通じて、自ら資料を収集・選択する力やそれを批判的に読み取り、解釈し考察に生かす力^{註4}や成果(読み解いた内容)を自ら作成した資料の形で適切に表す力を養成することを学習のねらいとしたい。

(2) 博物館活用との関連

博物館の活用は下記に示すように、「ねらい」を実現するための最適の方法論である。

①学校教育にはない博物館資料を活用した教育的機能＝モノに即した教育 ^{註5}^{註6}

・モノ資料とのコミュニケーションの場

モノが生徒の視角・聴覚・触覚に直接訴えかける経験をさせるので、生徒の興味関心を誘い、感動させたり、新たな発見をさせて知識を深めていく効用が期待できる。

・知識を得ていく為の「学び方」の習得の場

モノの見方・読み解き方等の方法論の学習の場となるので、プロセスに価値を置く教育活動が成立する。

②博物館資料の活用で養成される資質・能力

・主体的に課題(資料)に対して取り組む資質の涵養

学習者側の主体的な取り組みの積み重ねで有効な授業が成立する。

・知識を活用して、モノを観察し表現する技術と能力の育成

自分の持つ経験や知識を通して、新たな課題を発見し、自力で体系化して表現する能力が養われる。

・モノに対する多義的観察結果を自力で確かめる能力の育成

ひとつの資料から複数の情報を発見し、モノと自分の中にある経験や知識と対照させて概念を検証する能力の習得が期待できる。

(3) 博物館資料の教材観

博物館資料の特性から学習指導要領との関係で生徒に目標とさせるものが達成される。

①学校教育の教材の限界性

学校の教育教材は一般的に抽象された概念や法則を発展段階に応じて知識として享受させる営為なので、生徒の認識が固定化されて停止したり既存の概念に満足して新たな創造性に繋がらないことが懸念される。

②学校教育の教材の限界性を解消する博物館資料

生徒が実態資料の観察から引き出される情報を自力で確かめる能力の育成ができる。

また資料と学校で習得した知識と対照させて理解を深化させたり新たな概念を導き出すこともできる。

(4) 博物館資料の活用による「生きる力」の育成

①学校教育だけでは養成できない能力

何にでもなり得る資質を持った人間を養成するために何処でも通用する一般的知識を与えるだけでは、主体的に生活を創造する知識は身に付かない。それ故自分の力で自分の生活環境を発展させる能力を持つ人間の育成は難しい。

②学校教育を補完する博物館活用による人間形成

博物館教育では資料から引き出した概念を生徒自身の持つ経験や知識を通して自力で検証体系化していく構想的能力や、一つの物事事象から別の価値を発見し創り出していく多義的理解が習得されるので、自己教育力を持つ人間形成が期待できる。

3. 指導計画

(1) 単元…近代産業の発展と两大戦をめぐる国際情勢

※歴博の貸し出し教材「戦争ポスター」の使用に制約された単元設定

(2) 単元のねらい

①高等学校学習指導要領解説地理歴史科日本史A 2 内容とその取扱い(2)

「戦時体制の強化という動きに着目して我が国で全体主義的な国家体制が進展し(中略)戦時体制下における経済の統制、学問・思想・教育などの分野における統制により国民の生活や意識がどのように変化したかを考察させる。」

②東京都教育委員会 都立高校学力スタンダード 日本史

「戦時体制の強化と第二次世界大戦」

「戦争の長期化による(中略)国民生活への影響、学問・思想・教育などへの統制について理解する。」

(3) 単元の指導目的

前述の「2 学習のねらいと博物館の活用との関連」の「(1) 学習のねらい」と「(2) 博物館活用との関連」を統合すると下記の単元目標の設定できる。

- ・学習活動を経験することで生徒が意欲的に課題を探究する潜在能力を引き出すこと。
- ・歴史が多様な資料を根拠に叙述されていることを博物館資料で体感させること。
- ・資料の見方(資料解釈の論拠を気付く能力)を養成すること。

- ・資料の特性（有効性と限界）を理解させること。
- ・生徒の思考能力（資料の比較検討と多面的考察に基づく総合的な論証能力）の育成。
→上記の能力育成をはかりながら、戦時下における統制が生活意識に与えた影響を考察。

（４）学習の形態と活動計画

①学習の形態

ソシオメトリックに編成したグループ毎に課題を解決させて結果を発表させる学習活動

②指導の形態

a 生徒の躓きに対する考え方・調べ方の教示

学習者の主体性を尊重した学習の場を保証するために教師は学習方法の援助のみを実施

b 学習プロセスの中での評価・助言

目標に到達できるように生徒の活動のプロセスの中で躓きが克服できる助言を実施

トゥールミン＝モデルで思考を可視化して、ルーブリックの手法で評価

（５）各時の活動計画… 学習活動No.1・2・3

	主な学習内容	関	思	技	知	主な学習活動など
第1次	①貸し出し教材を活用した学習活動 ○学習活動No.1…通常授業のなかに貸し出し教材の読み解き方の活動を導入した授業					<ul style="list-style-type: none"> ・貸し出し教材から情報を引き出すための資料の見方の演習 →資料観察の視点の提示 …ポスターの構成要素を分解して文字と絵の関連性を考察 →既習事項との関連付け …作成目的や使用状況等の社会的機能を考察 →貸し出し教材（戦争ポスター）の解説文の作成
第2次	②貸し出し教材を活用した学習活動 ○学習活動No.2…貸し出し資料と関連資料との複合 ・「歴史」を表現する事前学習					<ul style="list-style-type: none"> ・貸し出し教材と他資料を組み合わせるストーリーをつくる演習 →前時に使用した資料に他資料を年順に組合せていることでストーリーが見えてくることを気付かせる →複数の資料を比較させて「気付かせること」が展示機能の一つであることを体感させる ・貸し出し教材と他資料（同じモチーフ、別の観点）を比較させて「歴史」を発見させる演習 →貸し出し資料と他資料の構成要素をそれぞれ分解し要素の関係性を比較検討 ・相違点が示唆する歴史を読み解く
第3次	③貸し出し教材を活用した学習活動 ○学習活動No.3…貸し出し教材と関連資料を複合させた展示の計画を作成する為の事前学習					<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを表現するための貸し出し教材と補完資料の関係性の確認 →貸し出し教材では不明なところを整理して関係資料の補充でテーマが表現できるか確認 ・展示レイアウトの構想 →貸し出し教材と関係資料をどのように見せると効果的に「歴史」が表現できるか考えさせる

					<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート作成のための助言 →図書資料による調査・博物館見学や学芸員への相談等
--	--	--	--	--	--

(6) 評価基準

国立教育政策研究所「評価基準の作成評価方法等の工夫改善のための資料」に基づいて評価基準を設定⁷

4. 実践の概要

「2. 学習のねらいと博物館の活用との関連」の「(1)学習のねらい」と「3 指導計画」の「(3)単元の指導目的」に対して、以下学習活動No.1・2・3の有効性を検証するために以下の授業実践をした。

(1) 学習活動の過程

①学習活動No.1…通常授業と関連づけて貸し出し教材の読み解く活動

時程	活動内容	活動の留意点	評価基準等
導入 10分	① a 前時迄の復習に関連付けて学習活動の説明と目標明示 ・貸し出し教材の紹介 ① b 貸し出し教材から情報を引き出すための資料の見方の実演 〈事例〉資料を黒板に貼付 シンガポール陥落のポスター ・既習事項の活用で読解 …戦局の転換と生活の変化 ・何に着目して読解するのか ポスターの構成要素を分解 ・文字と絵の関連性を探る	①貸し出し教材が生み出された時代的背景を想起させる ① b 貸し出し教材の説明文作成につながることを示唆 ・戦争ポスターは使用目的に規定されて必ずしも時代の実像を表現していないことに留意させる ・貸し出し教材からは法量・素材・制作方法まではわからないことを認識させる	①到達目標の提示 ・課題を認識し（関心）学習の見通し（意欲）を立てられたか ・資料の特性（偏向性）を理解したか ・資料の限界性を認識したか
展開 30分	② a 貸し出し教材から情報内容を引き出す作業 〈事例〉資料を黒板に貼付 節米一割のポスター ② b 躰きの発見と解消 ・資料から情報を引き出せない理由を書き出させる ・助言を活かして資料を読み直してみる 〈助言と発問例〉 ※「戦時食糧の確保」に着眼	② a 資料観察の視点の提示・法量・形態・素材・制作方法等の確認 ・何のために作製したかを既習事項と関連づけて考察 ・どのように使用したかを既習事項と関連づけて考察 ② b 躰きへの助言 ・資料から情報を引き出せない理由に基づき助言 ・適時適切な助言で到達目標に引き上げていく ※グループメンバーでも意見交換	②根拠を踏まえて資料から情報を引き出しているか ・美術的な見方だけでは印象を感想として表現するだけで終わるので資料がその時代に何を目的としてつくられたのか、どのような機能を果たしたかに就いて確認

	<p>※作画に着目→節米の方法 ※節約した米の行方の推察</p> <p>③資料に関する解説文の作成 (説明内容の要素と順序)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつごろ ・誰が誰に対して ・どんな目的で作成したか <p>④貸し出し教材の解説文との比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の過不足の確認 <p>※貸し出し教材に関して知りたいことや疑問を指摘させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・描かれた情報の他に秘められた内容も類推 <p>③情報の整理と関連づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・如何なる情報を見学者に伝えるのかを意識させる ・初めて資料を見た人にも判るような記載にさせる <p>④必要不可欠な情報は何か記載の順序も確認させる</p>	<p>③表現方法に工夫が認められるか</p> <p>④キャプションの意図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報内容の選択の理由を理解したか
小括 10分	<p>⑤次回の活動へのアプローチ 資料の限界性と補完資料 (発問)</p> <p>当時の食生活の様子をわかりやすく示すには、ポスターの他にどのような資料が必要か</p>	<p>⑤貸し出し教材だけでは、戦時下の生活意識の変化までは語れないことに留意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学経験のある博物館等の展示を想起させる 	<p>⑤戦時下の生活意識の変化を表す補完資料を想起できるかどうか</p>

②学習活動No.2…貸し出し教材と関連資料との複合で「歴史」を表現する事前学習

時程	活動内容	活動の留意点	評価基準等
導入 10分	<p>① a 活動内容と目標の説明</p> <p>① b 貸し出し教材と他資料を組み合わせてストーリーをつくる実演 (事例) 順次資料を添付 シンガポール陥落ポスターに以下の資料を編年順に掲示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年兵募集のポスター ・松根油のポスター ・機あれども飛機なしポスター ・何が見えてくるか考えさせる 	<p>① a 前時のポイントの確認と今時との繋がり of 明確化</p> <p>① b 前時に使用した資料に他資料を編年順に組合せていくことで「戦局の悪化」が見えてくることに気付かせる→説明の認識だけではなく、複数の資料を比較させて「気付かせること」が展示機能の一つであることを体感させる</p>	<p>① 前時の資料の読取り方を認識しているか</p> <p>① b 複数の資料を比較検討した判断に基づいて総合的に検証したか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を活用してモノを観察して資料解釈の論拠を見出しているか
展開 30分	<p>② a 貸し出し教材から情報内容を引き出す作業 (事例) 資料を黒板に貼付 作業1…同じモチーフで比較→戦時中の女性のポスター (事例) 資料を黒板に貼付</p> <p>作業2…別の観点で比較 →対戦国のポスター</p>	<p>② a 先ず前時の活動で体得した技能を活用して個々の資料をそれぞれ読解させて情報を引き出させる</p> <p>作業1→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通要素が何かを明確にさせる ・要素の関係性を考察させる <p>作業2→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼我の表現の相違点を明確にさ 	<p>② a 資料解釈の論拠を見出すことができたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数資料の比較検討と多面的考察に基づく総合的思考力が認められたか ・戦時下における統制が生活の意識に与えた影響を考察できたか

小括 10分	<p>② b 躰きの発見と解消</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から情報を引き出せない理由を書き出させる 助言を活かして資料を読み直してみる (助言と発問例) 作業1→着眼点 女性の表情と背景の関係 どんな様子で描かれているか 作業2→着眼点 日米の女性の表情の違い スローガンの違い 資料の複合＝展示 見学者→ストーリーの発見 	<p>せる</p> <ul style="list-style-type: none"> 相違点を比較して何が見えてくるか考察させる <p>② b 観点の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成要素をそれぞれ分解し比較検討 構成要素の関係性の考察 ※グループメンバーで意見交換しながら課題解決 国民総決起の内実に気付かせる 戦局の違いを気付かせる 日米の兵員募集のポスターの比較→正の転移への強化 他のビジュアル資料の想起 	<p>② b 情報を弁別し不明な部分に関して援助者のアドバイスを活かしたりグループメンバーとの意見交換で課題が解消できたかどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項と関連づけて題材内容を捉えているかどうか
-----------	---	---	---

③学習活動No.3…貸し出し教材と関連資料を複合させて展示計画を作成するための事前学習

時程	活動内容	活動の留意点	評価基準等
導入 15分	①活動内容と目標の説明 展示の事例紹介	①博物館等の展示の機能や表現方法に留意させる	①展示の方法の特徴を理解したか
展開 30分	<p>②展示テーマの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題(展示計画)作成のための貸し出し教材をグループ毎に興味に基づき選択 <p>a 資料の限界性と補完資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸し出し教材では不明なところ(課題)を整理して(課題解決の方法)として関係資料を見出す <p>b 展示レイアウトの構想</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸し出し教材と関係資料をどのように配置すれば、効果的に「歴史」が表現できるか考えさせる 	<p>②補完資料を導き出す観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ※何を見学者に伝えたいか 同じ時代の他のモノと資料とのつながりを考える 同じ機能を果たすモノが外国ではどうなのか 資料が他の時代ではどのような移り変わりをしたか考える 当時の人のくらしの様子を想起する 人々のくらしに与えた影響を考える 現在の生活と対比させる ※机間巡視して個別に対応 展示の事例を複数紹介 図録、リーフレットの使用して具体的な展示イメージを形成 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を解消するにはどのような資料が必要となるか見当がついたか 補完資料を活用してテーマ設定ができたか 事例として提示した展示の特徴を活かして展示構想図がイメージできたか
小括 5分	③課題レポートの確認 ・関連資料を確定する事 ・展示レイアウトや展示方法を図示する事	③レポートの書き方の説明 ・インターネットを使用しても複数の資料を提示する事 ・実際に博物館を見学して展示を模倣してみる事	

5. 成果と課題

学習のねらい・指導目的と生徒たちの学習活動の比較検証を通じて、学習活動の成果と課題に就いて述べてみたい。

(1) 成果

①生徒が意欲的に学習課題を探求する潜在能力を引き出したこと

学習活動の趣旨説明をして到達目標を明示すると何をどのようにすれば学習目標に到達できるのかがわかるので、生徒自ら学習の方向付けができた。

課題資料の読解で読み取れた情報と不明な箇所を弁別させてから指導者側が生徒の躓きに適時助言してわからないところがわかるようにすると主体的学習へ転化が見られた。

②資料の見方（資料解釈の論拠を気付く能力）を養成することができたこと。

戦争ポスターの解説文をつくる作業の中で、資料の見方（要素分解と関係性の類推）の範例を示すと文字と絵の関係だけでなく、全体的な構図と配色などのマクロ的視野からの解釈の他に振り仮名の意図などのディテールまで読み解いていた。この学習状況から資料を読み解き分析する力、解釈し考察に生かす力を養成することができたと言える。

③資料の特性（有効性と限界）を理解し、資料を収集・選択する力を涵養できたこと

貸し出し教材と組み合わせてテーマを表現する関連資料の想定する作業を通じて、貸し出し教材だけではテーマを表現していくのに何が足りないのか、ひとつの資料で表現できる限界性を気付かせることができた。また、その認識をふまえて、テーマを表現していくには更にどのような資料が必要となるのか、関連資料を想定することができた。資料の特性を強化するために同様の資料や対極の資料を想定したり、特性を深化させるために補足説明的な資料を想定した。この活動で自ら資料を収集・選択する力を養うことができたと言える。

④読み解いた内容を自ら作成した資料の形で適切に表す力の涵養ができたこと

貸し出し教材の解説文の作成を通じて、資料から読み解いた情報をどのように構成していくとやりたいことが相手に伝わるのかを考えさせることができた。伝えたいポイントを書体を変えたり着色するなど視角に訴える表記の工夫や対話文を用いて読み易くするなど表現の工夫も見られた。また、何をどのように体感させると見学者に効果的に展示内容を気付かせる事ができるかという観点から、資料展示のレイアウトのプランニングをさせると説明パネルと音声や映像資料、ジオラマなど五感に訴える媒体と複合して使用することを発想できた。展示を通じて伝えたい内容を見学者に具体的にイメージさせる為に資料の見せ方を工夫していることから、生徒が資料を比較検討して多面的に考察した思考の成果を的確に表現する力を引き出すことができたと言える。

上述の検証から今回の学習活動は学習指導要領の「資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能」を身に付けさせるには有効と言える。また、この能力の育成をはかりながら、戦時下における統制が生活意識に与えた影響を考察させる中で歴史が多様な資料を根拠に叙述されていることを博物館資料で体感させることができたと思う。

(2) 課題

①貸し出し教材に起因して学習活動が制約されたこと

貸し出し教材が原資料の法量や材質を意識していない二次資料なので、生徒に法量や材質を確認させる活動ができない。生徒から印刷方法に関する質疑も出されたが貸し出し教材からはわか

らない。また、貸し出し教材の裏面に付された説明文は資料そのものの説明ではないので、生徒が記述した解説文との比較検討する学習活動に繋がられない。

②展示構想図作成後の活動

生徒（グループ）で作製した展示計画書を他のグループに評価させてから、作成グループに作成意図を他のグループに説明させて、両者の見解の異同を確認する作業まではできなかった。

6. わたしの考える歴博活用案

作業仮説を授業実践で検証した結果、学習活動No.3まで成果に示した効果が認められた。しかしながら、カリキュラムの制約から各グループが作成した展示計画書を具現化したり、これを他のグループに評価させる活動の検証ができなかった。そこで、学習活動No.3までは従前の計画通りとして、検証できなかった活動をNo.4として全体計画案を提案したい。

(1) 学習活動のねらい

「2. 学習のねらいと博物館の活用との関連」の「(1) 学習のねらい」と、「3. 指導計画」の「(3) 単元の指導目的」に準じるが、学習活動No.4は特に資料を活用して歴史を考察したり表現する技能を高めることや自らの考えを論述だけでなく様々な方法で表現できることが学習活動のねらいとなる。

(2) 各時の活動計画

	主な学習内容	関	思	技	知	主な学習活動など
第1次	①事前学習					<ul style="list-style-type: none"> 生徒に学習活動の目的と概要の説明 学習教材としての博物館資料が物語る時代の特徴や史的背景の概観
第2次	②貸し出し教材を活用した学習活動 ○学習活動No.1…通常授業のなかに貸し出し教材の読み解き方の活動を導入した授業					<ul style="list-style-type: none"> 貸し出し教材から情報を引き出すための資料の見方の演習 →資料観察の視点の提示 …ポスターの構成要素を分解して文字と絵の関連性を考察 →既習事項との関連付け …作成目的や使用状況等の社会的機能を考察 →貸し出し教材(戦争ポスター)の解説文の作成
第3次	②貸し出し教材を活用した学習活動 ○学習活動No.2…貸し出し教材と関連資料との複合で「歴史」を表現する事前学習					<ul style="list-style-type: none"> 貸し出し教材と他資料を組み合わせてストーリーをつくる演習 →前時に使用した資料に他資料を編年順に組み合わせていくことで、ストーリーが見えてくることを気付かせる。 →複数の資料を比較させて「気付かせること」が展示機能の一つであること体感させる 貸し出し教材と他資料(同じモチーフ、別の観点)を比較させて「歴史」を発見させる演習 →貸し出し教材と他資料の構成要素をそれぞれ分解し要素の関係性を比較検討

第4次	②貸し出し教材を活用した学習活動 ○学習活動No.3…貸し出し教材と関連資料を複合させた展示の計画を作成する為の事前学習				<ul style="list-style-type: none"> 相違点が示唆する歴史を読み解く・テーマを表現するための貸し出し教材と補完資料の関係性の確認 →貸し出し教材では不明なところを整理して関係資料の補充でテーマが表現できるか確認 ・展示レイアウトの構想 →貸し出し教材と関係資料をどのように見せると効果的に「歴史」が表現できるか考えさせる ・課題レポート作成のための助言 →図書資料による調査・博物館見学や学芸員への相談等
第5次	③事後活動 課題発表と学習の整理				<ul style="list-style-type: none"> ・レポートを基にした発表と評価 →テーマを伝える方法論の確認 …展示資料で時代の様相が見学者に理解されたかを他のグループが審査 →両者の見解の違いを確認 …伝えたい内容が、どのように受け取られたのか違いの原因を考察 ・自己評価カードの記入 …学習を生徒自身に総括 ・学習活動を通じて明確にできたことと疑問を整理 →生徒の疑問を基に発展学習

<参考文献一覧>

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説』

東京都教育委員会 『東京都学力スタンダード』 2013年

『モード・オブ・ザ・ウォー 東京大学大学院情報学環所蔵プロパガンダ・ポスターコレクション』

印刷博物館 2007年

田島 奈都子「日本製プロパガンダ・ポスターに見られるデザインの傾向に関する考察—昭和館所蔵作品を中心として」

『昭和のくらし研究』No.9 昭和館 2011年

日本展示学会出版事業委員会 『展示論—博物館の展示をつくる』 雄山閣 2010年

註1 教科の履修方法

当該生徒は必修科目として、第1学年で地理A、第2学年で世界史A、第3学年で現代社会の履修となる。日本史に関しては、第3学年で選択履修となるので、義務教育以来の学習となる。

註2 クラスの課題と課題解消の方向性

生徒のニーズやレディネスの状況を把握してから学習計画を補訂するために、年度当初にアンケート調査を実施している。義務教育以来の日本史学習となるため、義務教育段階までの学習経験が歴史学習のイメージを形成していることが判る。資料を用いた学習活動と関連する事項を見ると「どのような学習が好きですか」の問いに対し「資料を読み取る」「自分で考える」ことを厭う生徒が多い。この傾向は、義務教育段階で考える授業よりも覚える授業を経験してきたことに起因する。歴史学習を暗記と誤解して、資料に基づいて考える本来の歴史学習の意識化がなされていない。それ故、博物館と連携した教育活動が有効なのである。また、学習状況に関する事項からは、歴史用語を「聞いたことはある」が、内容の「説明」が出来ない生徒が多い傾向が認められる。この傾向は既習事項の関連付けが不十分なことを示唆している。『東京都第3次教育ビジョン』取

組みの方向で養成すべき力とされる「既習知識を活用して論理的に表現する力」とも符合する。情報を関連付けて論理的に表現できないのは、当該生徒の場合は知識不足ではなく、理解納得型の生徒なので、語句の意味が判然としないと歴史事象が理解できなくなること起因する。それ故、モノから情報を引き出し読み解く学習プロセスで、生徒の躰きの要因を指導者側が把握して、適切なアプローチを施せば理解に繋がることになる。ツールミン=モデルで生徒の最近接領域を把握して、ルーブリックの評価に基づいてアプローチする手法が有効と考えられる。

註3 高等学校学習指導要領解説地理歴史科日本史A 2 内容とその取扱い(3)

「『資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したり(傍点 筆者)する技能を高める』(中略)自らの考えを表現する方法は論述だけでなく(中略)様々なものが考えられる。」

註4 課題学習で身に付けさせたい資料活用の能力

- ・資料収集能力
課題を発見したり、課題を解決するのに必要な資料を収集する能力
- ・資料選択能力
収集した資料を整理し、必要な資料を適切に選択できる能力
- ・資料の読み取り能力
選択した資料から調査したいことを発見したり、検証できる能力
- ・資料分析能力
歴史事象にかかわる必然性や法則性を抽出したり、仮説を検証できる能力

註5 高等学校学習指導要領解説地理歴史科日本史A 2 内容とその取扱い(1)

「『近現代の歴史の考察に有効な諸資料』としては、(中略)博物館や郷土資料館にある諸資料、(中略)も考えられる。ここでは、様々なものが歴史的資料になりうることに着目させるとともに、それぞれの特性に気付かせ(以下省略)」

註6 高等学校学習指導要領解説地理歴史科日本史A 2 内容とその取扱い(3)

「既存の資料や博物館などの施設を活用するだけでなく(中略)体験の聞き取り、(中略)戦争遺跡の見学、それらの文化財の歴史的意義の考察(以下中略)」

註7 評価

①観点別評価基準

- 【関心意欲】博物館との関連…主体的に課題(資料)に対して取り組む資質
受身の学習から脱却し自主的に学習に取り組む力量が身に付いたかどうか
- 【思考判断】博物館との関連…モノに対する多義的観察結果を自力で確かめる能力
一つの資料を多面的考察したり複数の資料を比較検討した判断に基づく総合的な論証能力が身に付いたかどうか
- 【資料活用の技能表現】博物館との関連…知識を活用して、モノを観察して表現する技能
資料解釈の論拠を見出すことが出来たかどうか
資料の限界性を踏まえて、資料を効果的に使用して自分の考えを表現したかどうか
- 【知識理解】
既習事項と関連づけて題材内容を捉えているかどうか

②評価の工夫

- ・授業の中で達成基準を生徒に提示
- ・単元の最後に自己評価カードを使用して学習を総括